

釧路港将来ビジョン 概要版 1/3

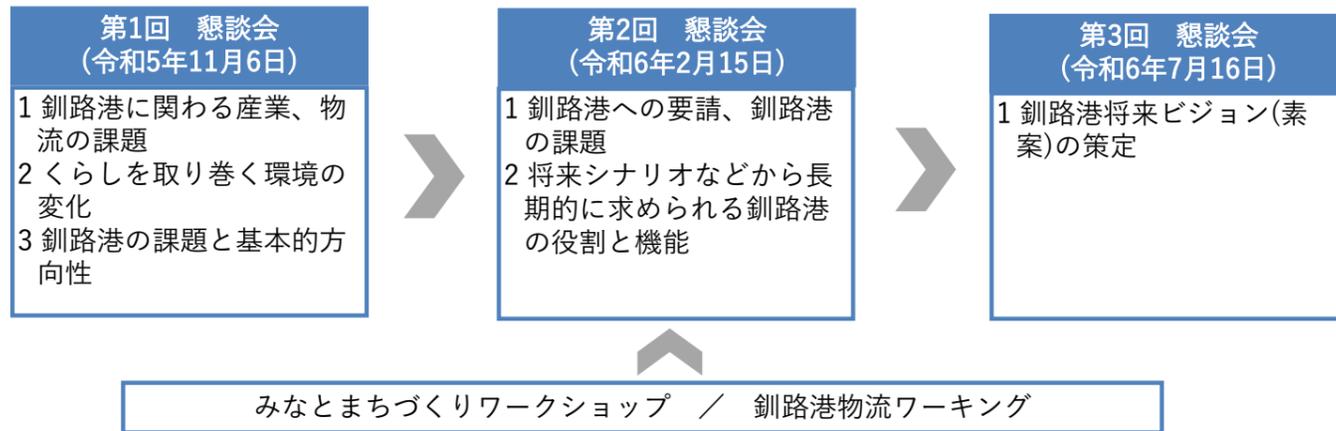
I 釧路港将来ビジョンについて

(1) 策定の目的

釧路港を取り巻く社会情勢は、物流の2024年問題やクルーズ客船の大型化への対応など、大きな変革の時を迎えており、このような社会情勢下において、釧路港の未来像を検討し、将来にわたっても、釧路港がひがし北海道の物流拠点、賑わいの拠点になるべく、釧路港の中長期的なあり方を示す「釧路港将来ビジョン」を策定した。

(2) 検討の経緯

釧路港将来ビジョンの策定にあたり、学識経験者や港湾関係機関など16名で構成する釧路港将来ビジョン懇談会を設置した。また、同懇談会の作業部会として「みなとまちづくりワークショップ」、「釧路港物流ワーキング」を設置し、これら作業部会での検討内容を釧路港将来ビジョンに反映した。



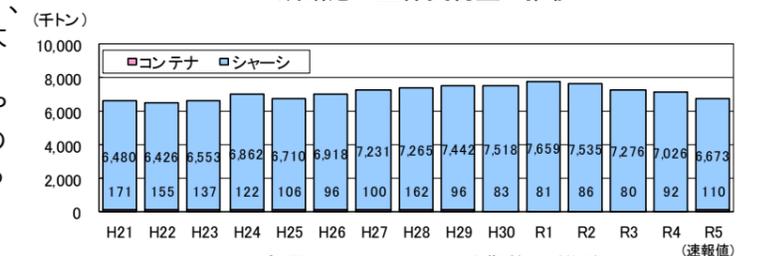
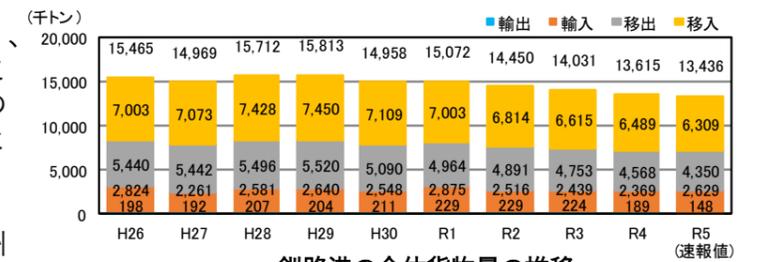
II 釧路港の現状(1)

- 東港区は、令和5年の水揚げ量日本一となった漁業基地を有し、また、釧路川リバーサイド地区において、クルーズ客船の受け入れや各種のイベントが開催され、人流ゾーンとして機能している。
- 西港区は、ひがし北海道の物流の拠点であり、内外貿のユニットロード定期船や国際バルク戦略港湾の輸入とうもろこしのパナマックス船が入港するなど、物流ゾーンとして機能している。



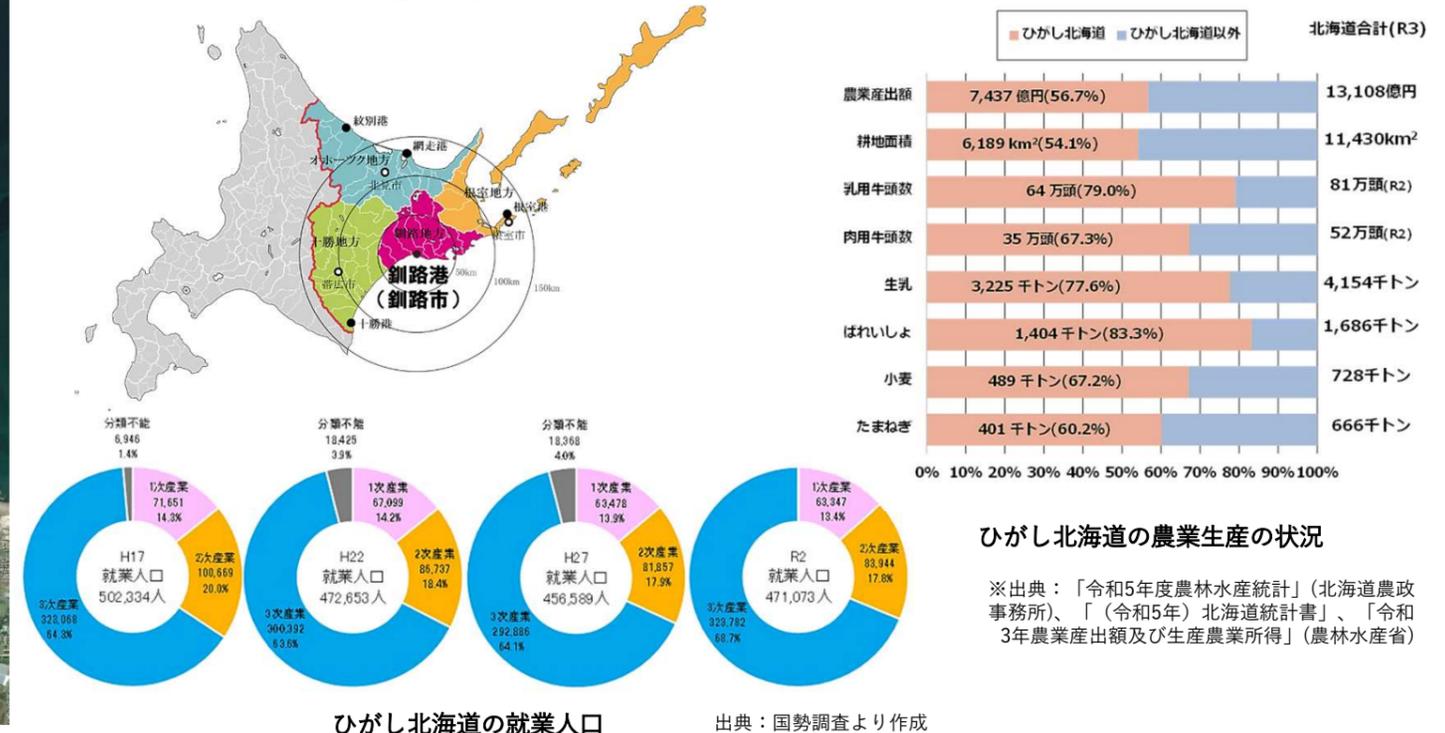
II 釧路港の現状(2)

- 釧路港の主要取扱品目は、石油製品(移入)、その他畜産品(生乳)(移出)、とうもろこし(輸入)であり、全体貨物量は、2021年の大手製紙工場の撤退により、約1,300万トンとなっている。
- 内貿RORO定期船は、道内の苫小牧港、本州の太平洋側の各港と週13便が運航されており、取扱量は、約700万トンで推移しているが、大手製紙工場の撤退により減少傾向にある。移出の主要貨物は、その他畜産品(生乳)や製造食品(砂糖など)である一方で、移入の主要貨物は、空シャーシ、空コンテナとなっており、片荷の解消が課題となっている。
- 外貿コンテナ定期船は、かつては週4便が運航されていたが、新型コロナウイルスの影響により、2022年には週1便にまで減便となり、取扱量は大きく減少している。輸入の主要貨物は飼肥料などである一方で、輸出の主要貨物は空コンテナとなっており、内貿RORO定期船と同様に、片荷の解消が課題となっている。



III 釧路港の背後圏の現状

- 釧路港の背後圏は、釧路・根室地方、十勝地方、オホーツク地方のひがし北海道であり、豊富な自然環境に恵まれ、国内最大規模の農水産業の拠点となっている。
- ひがし北海道は、「釧路湿原国立公園」や「阿寒摩周国立公園」などの国立公園を有しており、雄大な自然環境を求め、毎年多くの観光客が訪れている。
- ひがし北海道全体の就業人口は減少しており、労働力の確保が課題になっていることから、労働生産性の向上に向けた取組が重要になっている。



釧路港将来ビジョン 概要版 2/3

IV 釧路港の課題

(1) 物流機能の低下

- 内貿RORO定期船が荷役を行う岸壁の現状は、老朽化の進展に加え、岸壁天端高が低いため、ランプウェイの角度が急になり、荷役に支障が生じている。
- 岸壁背後に公共上屋があるため、十分なシャワーヤードを確保することができなく、港内にシャワーヤードが点在している。



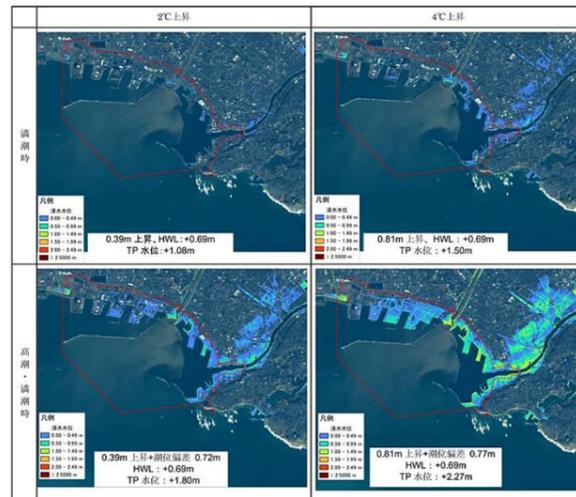
ランプウェイの角度が急な状態 岸壁背後に公共上屋がある状態

(2) 大型クルーズ客船への対応

- 概ね5万トン以上のクルーズ客船は、東港区の耐震・旅客船ターミナルで受入れることができず、西港区第4埠頭で受入れている。
- 西港区第4埠頭は、一般貨物の荷役が行われている埠頭であることから、クルーズ客船を西港区第4埠頭で受け入れることにより、荷役に影響を及ぼしており、また、クルーズ客船の乗客を中心市街地へ送り届けるためにシャトルバスを手配する必要があるが、ドライバー不足により、シャトルバスの確保が大変厳しい状況にある。
- 今後、大型クルーズ客船の寄港数の増加が見込まれていることから、西港区第4埠頭での人流と物流の混在が継続することになる。



西港区第4埠頭に停泊する大型クルーズ客船



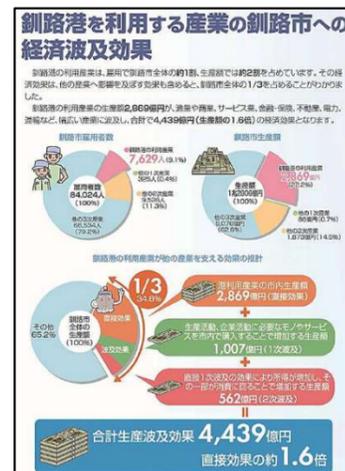
出典：北海道開発局港湾計画課提供
海面上昇による浸水シミュレーション

(3) 地震津波、気候変動への対応

- 釧路市は、日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震防災対策推進地域に指定されており、地震、津波対策が急務となっている。
- 北海道開発局による気候変動に伴う海面上昇の検討では、2100年の平均気温が18世紀後半の産業革命時と比較して4°C上昇し、加えて、高潮・満潮が重なるケースでは、海面が1.58m上昇するとしており、天端高が低い岸壁の浸水が懸念される。

(4) 市民認知の向上

- これまでの研究では、釧路港関連の雇用者は、市内雇用者のおよそ1割、生産額はおよそ2割を占め、釧路港は釧路市の経済にとって欠かすことのできないものであるが、市民は釧路港の機能を十分に理解していないとの意見もある。
- 現在の釧路港の施設は老朽化が著しく、施設の補修や更新時期を迎えており、それら老朽化施設の改修には、多額の費用を要することから、釧路港の経済波及効果が広く市民に認知された上で、港湾利用や港湾整備事業を推進することが肝要である。

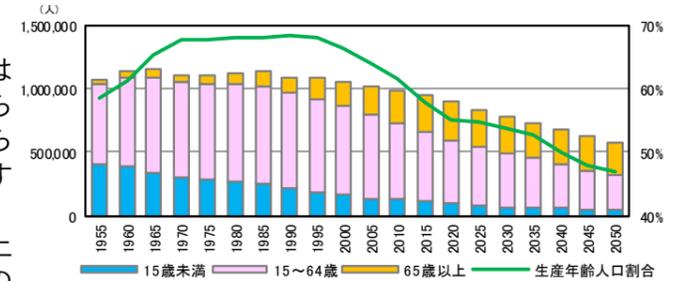


出典：地域資源としてのみなどを見つめ直す (平成20年3月 釧路開発建設部)
釧路港の経済波及効果

V 釧路港を取巻く社会環境の変化

(1) 生産年齢人口の減少と物流の2024年問題

- 釧路港の背後圏である、ひがし北海道の総人口は1985年頃をピークに減少に転じており、15歳から64歳の生産年齢人口は、2045年にはピーク時から半減すると予測されており、労働生産性を向上する必要がある。
- 本年4月からトラックドライバーの時間外労働に上限規制が適用（物流の2024年問題）され、物流の停滞が懸念されており、トラック輸送から他の輸送モードへの転換の検討が必要な状況である。



※出典：「過去の国勢調査結果」
「日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」

ひがし北海道の人口の推移

(2) 河川空間の利活用の多様化

- 国土交通省では、豊かな自然などの観光資源や都市部の貴重なオープンスペースとしての価値を有する河川敷地において、にぎわいのある水辺空間の創出を推進している。
- 河川敷地の占用は、原則として公的主体に限られていたが、「河川空間を積極的に活用したい」という民間事業者の要望の高まりを受け、河川空間のオープン化が図られている。

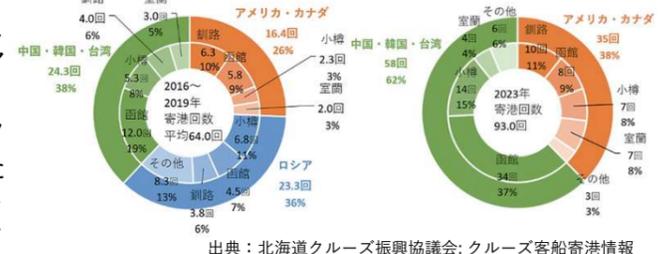


出典：河川空間のオープン化活用事例集(令和4年8月 国土交通省水管理・国土保全局)

河川空間のオープン化活用事例

(3) 外国クルーズ客船のツアー経由地の変化

- 外国クルーズ客船のツアーは、ウクライナ情勢により、サハリンを経由しない北米クルーズとアジアクルーズのツアーに二極化している。
- 北米クルーズについて、これまではペトロパブロフスクーカムチャツキーを経由することが多かったが、現在は、北海道の港湾がファースト/ラストポートになっており、入出国管理や船内で消費される物資の調達など、北米クルーズにおける北海道港湾の重要性が高まっている。



出典：北海道クルーズ振興協議会：クルーズ客船寄港情報

外国クルーズ客船の北海道港湾の寄港地



出典：国土交通省ホームページ

カーボンニュートラルポートの形成イメージ



出典：国土交通省 交通政策審議会 港湾分科会 防災部会資料

臨海部の防災・減災、国土強靱化対策

(4) 港湾の脱炭素化

- 国土交通省では、「2050年カーボンニュートラル」の政府目標の下、我が国の産業や港湾の競争力強化と脱炭素社会の実現に貢献するため、カーボンニュートラルポートの形成を推進している。
- 経済産業省では、今後の水素・アンモニアなどの大規模な需要創出と効率的なサプライチェーン構築のため、「カーボンニュートラル燃料拠点」の形成を戦略的に支援していくこととしている。

(5) 防災、減災対策

- 港湾は、災害発生時の緊急物資の輸送拠点になることから、耐震強化岸壁の整備や港湾BCPなどの防災、減災対策や国土強靱化対策を官民連携などにより推進する必要がある。

釧路港将来ビジョン 概要版 3/3

VI 長期的に求められる釧路港の将来像

物流

「ひがし北海道を支える結節拠点へ。荷主や物流業界に選ばれる港に。」

- (1) 高規格内貿ユニットロードターミナルの整備
- 耐震強化岸壁の整備
 - シャーシ、コンテナヤードの整備 (共有化、セキュリティ強化)
 - 船舶へのLNG、水素、アンモニアなどの供給拠点の整備

- (2) 外貿コンテナターミナルの高度化
- 国際コンテナ戦略港湾へのフィーダー船の岸壁の整備
 - リーファープラグの整備
 - 小口混載貨物施設、積替施設の整備

(4) 高規格道路などの整備促進

- ①道東道の整備促進 (釧路別保IC~温根沼IC)
- ②国道240号の改良
- ③道東道 本別ジャンクションの改良検討
- ④道東縦貫道路 (美幌町~標茶町) の早期整備に向けた調査促進



- (3) ストックポイントの形成
- 貨物積替機能を有する倉庫群の形成
 - 冷凍、冷蔵倉庫の整備促進
 - 鉄道貨物との共用



賑わい・交流

「シビックプライドの醸成。市民に認知され、まちの価値を高める港に。」

- (2) 官民連携による、市民に開かれた賑わいの創出
- みなと緑地PPPを活用した港湾緑地空間の整備



- (3) 釧路川リバーサイドを活用したみなとまちづくり
- まちの価値を高める、多様なイベントの開催促進
 - 釧路フィッシャーマンズワーフMOOなどの既存ストックの活用

- (1) 多様なクルーズ客船の受け入れ
- 小型~中型ラグジュアリークラスのエクスペディション船の受け入れ推進
 - アラスカ、カムチャッカクルーズの発着港湾の検討の推進
 - 大型クルーズ客船対応の岸壁、クルーズターミナルの整備

環境・エネルギー

「次世代エネルギーの供給拠点の形成。新産業に選ばれる港に。」

- (3) ブルーカーボンの推進
- 釧路管内ブルーカーボン推進検討協議会でのブルーカーボンの推進
 - 西港区島防波堤の背後マウンドにおける藻場の形成

- (2) LNG、水素、アンモニア、SAFの供給拠点の形成
- 船舶への供給拠点の整備
 - ひがし北海道へ供給するネットワークの形成



- (1) LNG、水素、アンモニア、SAFの調達、製造、貯蔵の拠点の形成
- 調達、製造、貯蔵の拠点の形成
 - 国内における次世代エネルギーの拠点との連携強化

防災

「北海道の物流を維持し、国民や産業を支える港に。」

- (2) 粘り強い防波堤の整備
- 既設防波堤の改良

- (1) 耐震強化岸壁を有するユニットロードターミナルの整備
- 内貿RORO船、外貿コンテナ船対応の船舶への燃料供給施設を備えた岸壁の耐震強化



- (3) 太平洋側港湾BCP及び釧路港港湾BCPの実行性の向上
- 石油製品、内外貿ユニットロード、穀物バルクの代替輸送機能の向上
 - 鉄道輸送との連携検討による、代替輸送機能の冗長性の向上